

一般質問から

平成26年第1回定例会の一般質問は、3月17日、18日、19日の3日間にわたり、16人の議員が44項目の質問事項について、市の見解を求めました。ここでは、各議員の主な質問と、それに対する市の見解を紹介いたします。

なお、詳しくは、5月下旬に更新予定のホームページをご覧ください。

※議員名の上の番号は、議席番号を示しています。



障がい者相談支援事業について

Q 「国連の障害者権利条約」批准が行われ、障がい者も普通に暮らせる地域づくりが求められている。相談支援事業の体制の強化について伺います。

2番 高波 幸雄

A 平成25年度、数を把握している相談件数は、障がい福祉課で月300件程度、特定相談支援事業所「八潮市生活支援センターあけぼの」では、2月末現在7058件、このうちあけぼのは面談だけでも2056件となっている。また、件数の集計はないが、保健センターでも相談を受けている。

今後「八潮市生活支援センターあけぼの」との連携を強化し、相談支援体制などについて協議を重ねる。また、気軽に相談できる体制を充実するため、「特定相談支援事業所」の指定を増やすため、事業所設置の上で必要となる相談支援専門員研修を引き続き積極的に働きかける。また保健センターでは、このころの相談も含めた、健康に関する相談は増加傾向にあり、また保健師業務は多岐に渡っていることから、増員については関係部門と協議していきたい。

八潮市の「教育ビジョン」と「将来の担い手育成」について

Q 八潮市の教育は、年間を通じて数多くの視察を受けているなど、画期的な取り組みに、国内外より多大な評価を受けています。そこで、地域における将来の担い手育成へと繋げるための「教育の役割」について、伺います。

5番 金子 壮一

A 教育委員会では、毎年「八潮の教育」を定め、「明日の八潮を担う人づくり環境の形成」を基本目標に家庭教育や学校教育の充実に努めています。

また、学力の向上と豊かな心の育成を目指し「学校教育エイトプラン」を定め、8つの視点

から様々な施策を実施しています。その中でも、地域と関連した取り組みは、中学生による職場体験活動や地域の人材活用推進事業など学校が地域の方々と共に子供たちの健全育成を目指すものです。今後とも地域の方々のご支援、ご協力による教育活動を重ねていくことで地域の産業や文化の理解を深め、郷土愛が醸成され、子供たちがよく成長し、将来の担い手として活躍してくれるものと考えています。

公園・緑地の設備や樹木の公募について

Q 現在、老朽化に伴う公園設備や樹木の植替えが必要な公園や緑地は、何箇所あるのかを伺いたい。

6番 林 雄一

A 本市では現在、八潮中央公園のほか大小の公園、広場や遊歩道など合わせて113箇所を整備し、多くの市民の皆様にご利用いただいているところでございます。

このうち、遊具につきましては、今年度、機能の状態などを把握するための点検業務委託を実施した結果、修繕又は安全対策などが必要な施設としては、70施設ございました。

また、樹木につきましては、開園当時から年数が経過し成育による周囲への落葉の影響や防犯上の問題などが発生している状況も見受けられます。

このようなことから、樹木につきましては、市内パトロールや市民からの通報等により状況を把握し、必要に応じて樹木の剪定や伐採等に対応していることから、現時点で植替えが必要な公園等は、ございません。

八潮市コミュニティバスについて

Q ①一日の利用交通状況について②コミュニティバスの時刻表設置場所について③ベンチの設置状況について

11番 前田 貞子

A ①八潮駅を起点に一日あたり北ルート、西ルート合計36便を運行。一日の利用状況は、平成25年4月から平成26年1月までの平均、北ルート129・5人、西ルート80・2人の合計209・7人。

②コミュニティバスの時刻表は、八潮駅北口1番バス乗り場に設置。八潮団地に行きたい方は、1番と4番バス乗り場の時刻表を確認したうえで乗車の判断

断をさせていただいており、ご不便をおかけしています。市では、バス事業者と連携・協力し、わかりやすく、見やすい時刻表、利用しやすいバス乗り場を目指して取り組んで参ります。

③八潮駅北口には、1番から3番バス乗り場が腰掛け式ベンチ。4番、5番バス乗り場がサポート式ベンチで平成17年に寄贈されたものです。今後、バス事業者に対し4番、5番バス乗り場に腰掛け式ベンチの設置を要望して参ります。

地域包括ケアシステムについて

Q 認知症の患者・家族を支援する本市の具体的施策の考えについてお尋ねします。

17番 小倉 順子

A 地域包括支援センターが中心となって、認知症について正しく理解し偏見を持たず認知症の人や家族に対して温かく見守り、自分のできる範囲で活動する「応援者」となっているただけるよう、機会を捉えて認知症サポーターの養成を行っています。

また国では、平成24年に「認知症施策推進5カ年計画」通称「オレンジプラン」を策定しました。本市におきましても「認

知症地域支援推進員」の配置や「認知症カフェ」の開設は、重要な事業として認識しています。

具体的な事業については、平成26年度に予定している第6期八潮市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定していく中で、検討してまいりたいと考えております。

